

～QCの7つ道具を使い、自社の現場改善につなげる～ 顧客の信頼を高める 「生産現場の品質管理」講座

研修のねらい

取引先の求める品質レベルの高度化に対応するためには、出荷検査だけでなく全社的な品質管理の体制構築が必要となります。

本研修では、顧客からの信頼を高め、品質不良による損失を削減するために、品質を製造工程で作り込むQC（クオリティーコントロール）の考え方とその管理の進め方を学ぶとともに、演習を通じて自社の課題を検討します。

研修のポイント

- ☑ 品質管理・改善を体系的に学べます。
- ☑ QC7つ道具の現場での使い方が身につきます。
- ☑ 職場ですぐに使える実践的手法と人を巻き込むポイントについて学びます。

研修期間

2027年
2/2(火)～2/4(木)
(3日間、21時間)

対象者

管理者・新任管理者

- ・標準化や品質管理を体系的に学びたい方
- ・QC7つ道具を活用した課題解決を学びたい方
- ・バラつきや人的ミスを無くし、再発不良の撲滅に取り組みたい方

定員 30名

受講料 32,000円(税込)

会場

中小企業大学校 関西校

大阪市中央区安土町2-3-13
大阪国際ビルディング

月日	時間	科目	内容
2/2 火	9:30-9:40	事務連絡	
	9:40-12:40	品質管理と改善の基本的な考え方・進め方	品質を作りこみ、顧客への不良品流出を防ぐために、計画的に仕事を実行してPDCAを回しながら管理するしくみを学びます。 ・品質管理部門の意義・目的 ・品質管理・改善の基本的な考え方・進め方 ・品質管理の基本手法（QC7つ道具） ・PDCAを回す考え方 ・QCストーリーで考える品質改善（演習）
	13:40-17:40		
2/3 水	9:30-12:30	不良の原因追及と再発防止【演習】	なぜ不良が発生するのかを知り、その後の再発防止の取り組みについて、演習を通じて学びます。 ・不良の原因追求の進め方（なぜなぜ分析） ・ヒューマンエラーの原因と対策
	13:30-17:30	見える品質管理の体系と実践ポイント	PDCAを見る化することで内容の質を高め、管理サイクルのスピードを早める「見える品質管理」について、必要性や概要そして実践法について学びます。 ・見える管理・マネジメントの期待効果 ・見える品質管理の体系と基本（道具立、管理基準の設定、チェックリストなど） ・見える品質管理の実践事例紹介（演習）（不良発生の手後管理、クレーム対応管理、予防管理、品質目標管理の成功のポイントなど）
2/4 木	9:30-12:30	品質管理の課題解決【演習】	品質管理の各種技法をもとに、自社の品質管理改善活動について検討します。 ・全員参加で改善に取り組む仕組みと進め方 ・自社の品質管理活動の改善検討
	13:30-17:30		
	17:30-17:40	修了証書交付	

※事務連絡等を含んだ時間：21時間 20分

※カリキュラムは都合により変更する場合があります。予めご了承ください。

講師紹介(敬称略)



一般社団法人中部産業連盟 東京事業部
次長 主任コンサルタント

伊東 辰浩 (いとう たつひろ)

2008年（一社）中部産業連盟入職以来、多数の企業でコンサルティング、教育研修に従事。全日本能率連盟認定マスター・マネジメント・コンサルタント、経済産業大臣登録中小企業診断士。専門分野は、5S・VM（見える経営・見える管理）活動の推進、品質管理を含むVM-FMS（フレキシブル生産システム）の構築および管理・改善、管理間接業務改革・革新など。著書に「モノづくり企業の品質管理大事典」（共著）など。